

2020年度(令和2年度)学校評価自己評価表

福山市立精華中学校区	校番 15	福山市立 精華中 学校
最終更新日	2020年(令和2年)4月1日	

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒は素直で、ボランティアや地域の行事にも積極的に参加し、社会に貢献している。 ・学校・保護者・地域が互いに連携協力できるように、各学校から行事・参観日等の予定を伝える。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規範意識は高く、言われたことに対して守ろうとする。 ・自己表現力が弱く、分かりやすく話したり書いたりすることに課題がある。 ・地域とのかかわりが強く、中学校区に対する愛着は強い。 	<p>育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>創造性</p> <p>生活や社会をよりよくするための課題を見つけ、既習事項を活用して、自分の考えや意見を表現している。</p> <p>自分の考えを、話す・書く等で表現させる。</p>	<p>批判的思考・問題解決・意思決定</p> <p>生活や社会をよりよくするため、様々な情報を多面的・多角的な見方で分析し、課題を適切な方法で解決している。</p> <p>根拠を持って考えを表現させる。</p>	<p>耐える力</p> <p>生活や社会をよりよくするため、相手の立場も思いやりながら目標を決めて、最後までやり遂げようとする。</p> <p>相手の立場を思いやりながら、目標を決めて、最後までやり遂げようとする。</p>
--	---	--	--	---	---

III 自校

<p>ミッション</p> <p>校区内での少子・高齢化の進展の中にあつての人材育成</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学力の定着と向上を図る。 ② 安心・安全で落ち着いた環境の中、豊かな感性を育てる。 ③ 地域の一員として、地域の行事に積極的に参加する生徒を育てる。 	<p>育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”</p> <p>めざす子ども像</p> <p>1年</p> <p>日常生活や地域社会をよりよくするために、自分の考えや意見を話したり書いたりしている。</p> <p>2・3年</p> <p>生活や社会をよりよくするための課題を見つけ、既習事項を活用して、自分の考えや意見を話す・書く等で表現している。</p>	<p>創造性</p> <p>日常生活や地域社会をよりよくするために、自分の考えや意見を話したり書いたりしている。</p> <p>生活や社会をよりよくするため、様々な情報の中から必要な情報を活かし、解決している。</p> <p>生活や社会をよりよくするため、様々な情報を多面的・多角的な見方で分析し、課題を適切な方法で解決している。</p>	<p>批判的思考・問題解決・意思決定</p> <p>日常生活や地域社会をよりよくするために、様々な情報の中から必要な情報を活かし、解決している。</p> <p>生活や社会をよりよくするため、様々な情報を多面的・多角的な見方で分析し、課題を適切な方法で解決している。</p>	<p>耐える力</p> <p>生活や社会をよりよくするため、相手の立場も思いやりながら目標を決めて、最後までやり遂げようとする。</p> <p>生活や社会をよりよくするため、相手の立場も思いやりながら、目標を決めて、最後までやり遂げようとする。</p> <p>誰に対しても思いやりの心を持ち、より高い目標を達成するために、相手の立場や考えを尊重しながら、粘り強く取り組み、やり抜いている。</p>
<p>学校教育目標</p> <p>夢と志を持ち、社会に貢献できる生徒の育成</p>	<p>研究</p> <p>教科等 道徳</p> <p>主題・内容等 自他を大切にし、認め合い高め合う生徒の育成 ～ 人権を尊重する授業づくり、人間関係づくり、環境づくり ～</p>	<p>めざす授業の姿</p> <p>課題に対して、自ら進んで考え、仲間とともに、自分の考えを深めたり広げたりして、協働的に課題を解決していく、一人も残らず学ぶ授業</p>		
<p>現状</p> <p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ・素直であり、校内・地域でのボランティア活動にも積極的に参加している。 ・体育大会や文化祭等では主体的に活動できるが、日常的なボランティア活動等には自ら進んで考え行動する主体性に課題がある。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペア・グループを活用して、生徒どうして「わからない」が言え、学び合いができつつあるが、思考を広げたり深めたりすることがなかなかできない。 ・自分の考えや理由を書くことはできつつあるが、うまく表現できない。 ・自ら考え学ぶ授業を、生徒と教師で創り上げるように取り組みつつある。 				

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 精華中 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)			
							□指標に係る取組状況	70%以上達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況	70%以上達成評価	総合評価	改善方策
1	主体的で深い学び	★	継続	課題に対して、自ら進んで考え、仲間と対話を通し、課題を解決していく、一人も残らず学ぶ授業づくりの推進	①「解決したい」と思わせる課題設定や導入発問の工夫 ②目的を明確にし、対話を通し、学びを深める場の設定 ③自主学習ノートで効果的に学習させる。 ④定期テストの中に自分の考えを書く問題を出題する。	ア「『なぜだろう』と思う課題を、解決しようと組んだ生徒肯定的回答70%以上 イ「授業で、対話を通し学びを深めている。」生徒・教職員肯定的評価80%以上 ウ自主ノートの取組みを通して、自分の学びが深まった生徒肯定的評価70%以上 エ定期テストで、自分の考えをわかりやすく解答している生徒の正答率70%	□指標に係る取組状況	70%以上達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	70%以上達成評価	総合評価	改善方策
				主体的に読書活動に取組む生徒の育成	①「おすすめ本」紹介文の作成 ②読書郵便 ③図書室利用向上	ア「おすすめ本」を持ち紹介できる生徒を90%にする。 イ体育大会で読書郵便を行う。 ウ図書室を週に1回以上利用した生徒50%以上	□指標に係る取組状況	70%以上達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況	70%以上達成評価	総合評価	改善方策
1	自ら考え判断し行動する		継続	主体的にボランティア活動が行える生徒の育成	①月1回のボランティア活動への積極的参加 ②地域ボランティアへの参加 ③企業の「服のチカラプロジェクト」に参加	ア「積極的に参加できた」生徒肯定的回答80%以上 イ地域ボランティアに1回以上参加70%以上 ウ積極的に「服のチカラプロジェクト」に参加できた生徒肯定的回答70%以上	□指標に係る取組状況	70%以上達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況	70%以上達成評価	総合評価	改善方策
				主体的に環境づくりに取り組む生徒の育成	①他者と協力しながら行う清掃活動 ②生徒の学び意欲を奮起する掲示物の作成	ア「協力して清掃活動をしている」生徒肯定的回答90%以上 イ学習活動の成果を掲示する	□指標に係る取組状況	70%以上達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況	70%以上達成評価	総合評価	改善方策
1	働き方改革		継続	教職員の笑顔と元気をつくる	①業務改善の会議を行う ②校務支援員の活用の工夫	ア1ヵ月の時間外勤務が45時間未満の職員を80%以上	□指標に係る取組状況	70%以上達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況	70%以上達成評価	総合評価	改善方策

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。